

● 今号のトピック ●

■ 要援護者の理解ワークショップ
& 福祉避難所宿泊体験レポート

8/8に行ったワークショップ・宿泊体験では、障害当事者と一般の方の交流の中で、災害時に想定される障害者の困難さを体験を通じて学びました。

2・3 ページ

■ ワークショップアンケート結果

今回の体験を通して、参加者の皆さんが感じたこと、気付いたことを挙げていただきました。

■ 避難所宿泊体験まとめ

4 ページ



要援護者の理解ワークショップ及び福祉避難所宿泊体験

『障害のある人の避難所体験』

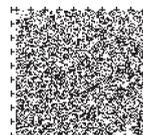
新宿区立障害者福祉センターは新宿区地域防災計画において、被災時は二次避難所として運用されることになっています。人員も資源も限られている中、実際の運用はどのように行われることになるのか。まだまだ、解らない点が多く残されています。まずは身近なところから身を持って体験していくことを通じ、各障害の立場から避難を考え、更なる防災意識の向上、障害を持つ人の避難所のあり方を同時に考える機会として実施しました。

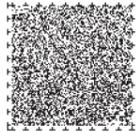
『実施のねらい』

- ①要援護者、とくに障害のある人について、避難所の生活の困難さを体験すること。
- ②地域住民などの一般参加者に、要援護状態の困難さを知ってもらうこと。
- ③二次避難所運営のヒントにすること。

『当日の実施状況』

日時 平成27年8月8日(土) 午後1時 ~ 翌8月9日(日) 午前9時
参加者 ワークショップ114名、宿泊体験42名(ともに職員含む)





みんなで学ぶ 特集！レポート

要援護者の理解ワークショップ & 福祉避難所宿泊体験



ワークショップ編

8/8に行ったワークショップでは、障害当事者と一般の方の交流の中で、災害時に想定される障害者の困難さを体験を通じて学びました。

12:30 参加受付

13:00 挨拶・趣旨説明

知的障害の方の中には指先の巧緻性や感覚が低い方がいます。軍手をはめて疑似体験の折り紙で鶴を折ってみました。なかなか上手く折れません。その時の周囲の声かけの違いで自分がどう感じるかを体験しました。

13:15 知的障害疑似体験ワークショップ (新宿区手をつなぐ親の会/兵庫県たつの市「ピース&ピース」)

15:00 ~ 17:00 各種身体障害分野ワークショップ



早稲田大学のボランティアサークル「早稲田レスキュー」とセンターのコラボ。非常時のWCの話など、皆さん興味深く聞かれていました。

都市型防災情報室



視覚障害を疑似体験できるシミュレーションレンズ これを装着して...



見えない人の見え方体験 見えない人の被災体験を聞こう

杖と手拍子だけを頼りに、障害物をよけて通ります

ジェスチャーだけで、聲者に伝言を伝えるワークショップ。やってみると意外に伝わるものと、好評でした。



ペットボトルを使って自閉症の典型的「シングルフォーカス」(一点に集中して周囲が見えなくなる現象)を体験。中央に立つ黄色い服の女性に注目しているため、馬に気がつきません。



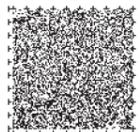
プロが教える 車椅子体験・言語障害体験

言語：クッキーを両奥歯にくわえた状態で話して、聞き取ってもらいます。聞き取りづらさ、伝わらないもどかしさを体験



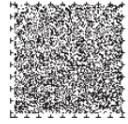
身振りだけでやってみよう！

聞こえない方とのコミュニケーションのとり方を学ぼう



ワークショップに参加された皆さんの感想は4ページへ！

避難所体験編



いよいよ避難所体験の始まりです。持っている障害もそれぞれ違う要援護者の方、一般の方、職員、全員協力してセンターで一晩を過ごします。

17:00 福祉避難所体験開始・アルファ化米炊き出し

18:30 夕食

障害のある方もない方も、いろんな方が交流しながら、和やかな雰囲気でした。

19:40 エアマット・ダンボールベッド設営



エアマット作り

全員で協力して...

間仕切りとダンボールベッド作り！



今晚の寝床。これがなかなか膨らまなくて意外に大変！！協力体制が自然とできました。



ダンボールとは思えないほどしっかりした作り！



21:00 消灯



個々のスペースを確保して...

就寝。眠れるか不安だな...



夜間、寝返りを打ったが、エアマットが押し割れ音を立て、30名の寝返りの音が室内に響き渡ります。



08:00 振り返りの会

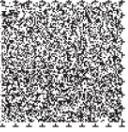
09:00 解散



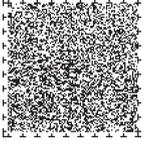
眠れた方にも眠れなかった方にも夜明けが訪れました...

初めての体験で、気がついたことが沢山ありました。アンケートの一部を以下にご紹介します。

- ・二部構成で、一部で障害理解のためのワークショップをしていただいたので、宿泊訓練の際の交流がスムーズになった。
- ・皆の力と知恵で準備・片付け等が仲良くできずばらしかった。知らない(いろいろな障害に対して)ことがたくさんあったことを気づかされたと共に、理解し、力をあわせての一日は大切な宝です。
- ・アットホーム的なところがあった。もし実際にあったらアットホームな感じはなくなると思った。
- ・マットレスのきしみ音をやわらげる方法を考えたいです。



ワークショップ アンケート結果



今回いただきましたワークショップへのアンケートの一部抜粋になります（順不同・原文ママ）
多数のご参加、ありがとうございました！

知的



- 普段経験できない経験をさせていただきました。健常者の方を含め、相手への配慮や思いやりの大切さを再確認しました。
- 知的障害の疑似体験、はじめてでした。新宿でも立ち上げられたらよいのにと思いました。
- 知的障害のことがよくわかった。今までどんな風に感じているのかいつも悩みだったが、目からウロコで本人が生きづらいとよくわかった。これからの対応にかاشていきたい。
- 知的障害と社会適応は関係ない 支援ではなく理解が欲しい という言葉に大きな感銘を受けました。

身振り



- 伝えたいことを全体で伝える必要が解った。少しでも手話を覚えることも必要。
- 手話をういなくても誠意をもって伝えようとするのが大切、解りあえることが解りよかった。
- どうしたら伝わるのかとても難しかったけれど、まずは伝えたい気持ちが大切だと感じました。
- 難しかった。情報を伝えるのに障害で手がうまく使えないから。

車椅子 ・言語



- コミュニケーションをとりながら「ゆっくり」が大切であることを学びました。お互いの理解がすすめばさらに豊かな社会になると思っています。
- ことばが伝えられないつらさを実感できました。

（右上へつづく）

- 車いすにはじめて乗れて乗り心地がわかってよかったです。言葉が伝えにくい困難さがわかりました。

見えない人



- アイマスク体験はほんとうに見えなかった。いきづらさがわかった。点字を読んで下さったのですが、あまりにスラスラ読んで下さってびっくりしました。
- 初めて目の見えない状態を体験しました。目が見えないことがこんなにこわいことだと思いませんでした。
- 同じ弱視でもいろいろな種類があることに驚いた。実際にやってみてよかった。

都市型



- 2番目に困ることがトイレとは意外だった。コンビニが水やトイレを貸してくれたり、またファーストフード店なども協力してくれるとは知らなかった。自動販売機が震災時に、飲料水を提供してくれることもしらなかつた。かんいトイレが重要だということがわかった。
- 数多くの情報から、要点をしぼってわかりやすいパネルと説明だったと思います。

<その他の声>

- 災害の様子がわかった。次はいかに平常心を持てるか。持つこつが知りたい。
- 当事者の方のお話を聴けたのがよかったです。ありがとうございました。
- 体験はとても大切だと思う。短い時間しか参加できなかったが、来て良かったです。ありがとうございます。

避難所宿泊体験まとめ

災害時に地域として支えあう体制をどうつくるか、というのは、殊更に要援護者に関わるものではなく、全ての人のテーマです。お互いの困難さを想像し、そのためにどんな仕組みを作り、備えておくか。この実験を通じて、障害者センターも学びを得ました。その知識は新宿区共通の財産です。今後センターからも気づきを発信していきます。

